

**製品名: MMP-16 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13983**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MMP16
別名	MMP16; MMPX2; Matrix metalloproteinase-16; MMP-16; MMP-X2; Membrane-type matrix metalloproteinase 3; MT-MMP 3; MTMMP3; Membrane-type-3 matrix metalloproteinase; MT3-MMP; MT3MMP
遺伝子 ID	4325.0
SwissProt ID	P51512
免疫原	抗血清はヒト MMP-16 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 551-600

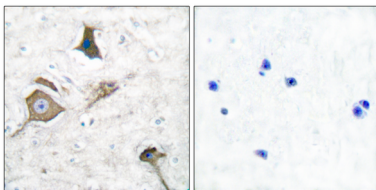
**背景**

マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) ファミリーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングなどの正常な生理学的プロセス、ならびに関節炎や転移などの疾患プロセスにおける細胞外マトリックスの分解に関与しています。ほとんどの MMP は不活性化プロタンパク質として分泌され、細胞外プロテアーゼによって切断されると活性化されます。コードされているタンパク質は、切断によって MMP2 を活性化します。この遺伝子がかつて MT-MMP2 と呼ばれていましたが、MT-MMP3 または MMP16 に改名されました。[RefSeq 提供、2010 年 10 月], 補因子: サブユニットあたり 1 個の亜鉛イオンを結合します。補因子: カルシウム。発達段階: 再構築中の組織で発現します。胎児組織、特に脳に存在します。発現は発達が進むにつれて低下すると思われる。ドメイン: システインスイッチモチーフ中に存在する保存されたシステインは、触媒亜鉛イオンに結合し、酵素を阻害する。活性化ペプチドの放出により亜鉛イオンからシステインが解離すると、酵素が活性化される。酵素調節: TIMP-2 は TIMP-1 と比較して阻害活性をほとんど示さない。TIMP-1 は、短いアイソフォームに対して TIMP-2 よりも結合親和性が低いと思われる。機能: III 型コラーゲンやフィブロネクチンなど、細胞外マトリックスのさまざまな成分を分解するエンドペプチダーゼ。プロゼラチナーゼ A を活性化する。血管のマトリックスリモデリングに関与する。短いアイソフォームはフィブロネクチンだけでなく III 型コラーゲンも切断するが、切断速度は遅い。I 型、II 型、IV 型、V 型コラーゲンには影響しない。しかし、CSPG4 と相互作用することで、メラノーマ細胞による I 型コラーゲンの分解および浸潤に関与する可能性がある。PTM: 前駆体はフーリンエンドペプチダーゼによって切断される。類似性: ペプチダーゼ M10A ファミリーに属する。類似性: 4 つのヘモペクシン様ドメインを含む。細胞内局在: メラノーマ細胞の細胞表面に局在する。サブユニット: CSPG4 コンドロイチン硫酸グリコサミノグリカンを介して CSPG4 と相互作用する。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、卵巣、小腸で発現する。短いアイソフォームは卵巣に認められる。、

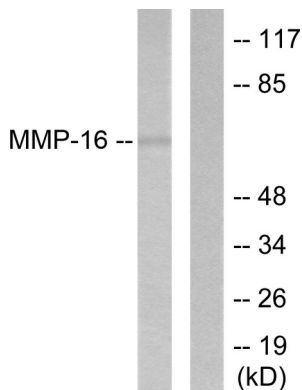
## 研究分野

血管新生

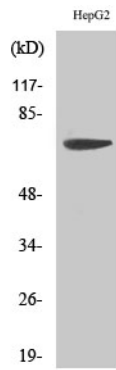
## 画像データ



MMP-16 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



MMP-16 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した MMP-16 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析